

令和 6 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立三永小学校

学校長名 木 村 忠 由

1 研究主題，研究内容・方法等について

(1) 研究主題

自律した学び手を育てる授業の創造
～児童の動機付けを高め，学力形成につながる効果的な指導の在り方～

(2) 主題設定の理由

本校では，学校教育目標「お互いを大切に，主体的に学び続ける児童の育成」の実現を図るため，昨年度は「自律した学び手を育てる授業の創造」を研究主題に掲げ，これまでの取組を継続・発展させながら学力の向上を目的とした授業づくりの取組を進めてきた。

本校が目指す児童の姿として設定した「自律した学び手」は，「①自分の学びの姿がわかっている姿，②学びの目標をもっている姿，③効果的な学習方法を知り，それらを選択している姿」と捉えている。本校のこれまでの取組から，「自律した学び手」として，児童が自己調整力を働かせ，学習方法を選び，決め，実行するに至るには，「学びの状況を意図的に振り返らせる場の設定」「他者と協働する過程」等が不可欠であることが明らかになった。

変化の激しい時代において，確かな学力を身に付け，課題に対して適切な方法を選択し，他者と協働して課題解決を図る力は，これからの社会を生きる児童に必要な資質・能力であると考えます。

今年度の取組は，昨年度までの取組をさらに継続・発展させ，「学習の動機付けを高め，学力形成につながる効果的な指導の在り方」についての取組を進めることとし，研究主題を「自律した学び手を育てる授業の創造」とした。

自律した学び手の姿ともいえる「自ら学びを求める児童」は，主体的に進んで学ぶ教職員集団の下で育つ。自らの資質・能力の向上に向けて主体的に学びに励む教職員集団を通して，学び方が分からない，身に付いていない児童に，学力形成につながる，自ら学び続けることができる効果的な学び方を教え，身に付けさせていく。

(3) 研究仮説

各教科・領域等の授業において、児童の動機付けを高める指導の工夫を行うならば、自律した学び手を育てる授業となり、児童の自己調整力と学力を高めることができるであろう。

(4) 研究内容

「自律した学び手を育てる授業の創造」を目標に、課題をもって研究を進める。

① 学年・学級の児童の実態，教員のキャリアステージに応じた研究

- ・ 「自律した学び手を育てる授業」に向け，学年・学級の児童の実態から個々の教員が取り組むべき課題を把握し，課題解決のための手立てを実践する。
- ・ 他者と協働する場や，学びの状況を意図的に振り返らせる場を設定する。

② 教職員の主体的な学びにつながる校内研修の在り方

- ・ 学校教育目標「めざす教師像：教育のプロとして，子供をよく見，子供の声に耳を傾け，子供に力を付ける教師」の具現化
- ・ ラウンドスタディによる協議会の実施
- ・ 個人課題の研究

(5) 検証の方法及び指標

A) 教師の授業力評価の分析

提案授業における教師の相互評価を通して，目指す児童を育成する学習指導を実現することができていたかを評価する。

<肯定的評価 3.2 以上（4段階評価）>

B) 児童の学力調査の分析

6月と12月の学力調査において，全国平均値と比較する。

<全国平均値以上>

C) 児童の意識調査の分析

6月と12月の意識調査を比較し，その結果を分析する。

<肯定的評価の割合 80%以上>

2 検証計画

(1) 教師の授業力評価の実施と分析（6月，提案授業後）

(2) 学力調査の実施と分析（6月，12月）

(3) 児童の意識調査の実施と分析（6月，12月）

3 校内研修計画

4月	<ul style="list-style-type: none">・前年度の研究の成果と課題分析・研修組織づくり・研究の年間計画案づくり
5月	<ul style="list-style-type: none">・研究方法の確認・研究の理論構築
6月 7月 8月	<ul style="list-style-type: none">・意識調査の実施及び分析・教材分析，指導案作成，指導案検討（模擬授業）
9月 10月 11月 12月	<ul style="list-style-type: none">・指導案検討（模擬授業） ・授業実践・学力調査の実施及び分析・意識調査の実施及び分析・研究の成果と課題の分析
1月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none">・研究紀要の作成・研究の課題整理・次年度の方向性の確認

4 研究公開の予定について

なし